



南戸塚中だより

令和2年度 第12号
令和3年3月19日発行
学校長 赤堀 貴
電話 871-7611



1年間の締めくくり

3月は学校の1年間の最後になります。3月11日(木)には卒業式も行われました。新型コロナウイルスの影響で困難な1年間でありましたが、学校では皆さんの出来る範囲で精一杯頑張っている姿に、たくさんの元気をもらうことができました。もうしばらく感染に気を付ける生活は続きますが、この1年間の成長を確認し、これから始まる新しい1年間の展望をもつ節目としましょう。

第35回 卒業証書授与式 ~立派に巣立ちました~

感染対策で卒業生とその保護者1名のみでの参加としましたので、1・2年生には先輩の立派な式での姿を直接みてもらうことができませんでした。当日読まれた3年生代表のことは掲載します。



令和二年度 門出の言葉

卒業生代表

「君と出会った奇跡がこの胸にあふれてる。」覚えていますか。

これは、私たち青学年の中学で初めての学年集会で、先生たちが歌ってくださった「空も飛べるはず」という曲の一部です。初めは、この曲の存在も知らず、軽い気持ちで聴いていましたが、今ではこの学年のみなど出逢った奇跡を感じ、歌詞の一つひとつからこの学年で過ごした日々を思い出すことができます。

記憶の中にある三年前、顔も名前も分からない人だらけの入学式は、とにかく不安でいっぱいでした。しかし、年月が経つとともに、私たちは強く深い絆で結ばれ、数え切れないほどのかかわりをもつことができました。

この体育館には、全く馴染んでいない制服姿にまだあどけない顔立ちの私たちがいました。そして、口を開けば甲高い声だったのが、今では見慣れた制服姿に凛とした顔立ちに、落ち着いた声へと変わりました。

私たちが成長した過程には誰も忘れられない出来事がありました。新型コロナウイルスの脅威による学校の休校、秋に延期した体育大会、中止となった最後の文化発表会。憧れでもあった京都・奈良への修学旅行。いつからか全員がマスクを付け始めました。でも、顔の半分以上が見えなかったのが変に思ったのは最初だけで、今はどんな顔をしているのか、幸せそうな顔をしているのかそれとも寂しい顔をしているのかを想像することが容易にできるようになりました。それは「新型コロナウイルスがあろうが何があろうが楽しもう」という、学級委員や先生方を中心に、学年みんなで努力したからだと思います。私たちの三年間は、たくさんの制限が

タイトル上のメッセージ

“Let it be”のタイトルであり歌詞の一部です。Let+(人・もの)+原型動詞で「(人・もの)に原型動詞させる」という意味になります。例えば、Let me try. 「私にやらせて」となります。この例文なら分かりやすいですが、*it*と*be*は日本語にうまく訳せないですね。代表的な訳を載せましたが、*Let it be*の意味が感覚的に分かるようになったら、英語力はバッチリでしょう。

ある中でしたが、楽しい時もたくさんあったのです。学年集会やさまざまな行事。白い布で隠れているはずなのに笑顔があふれ出し、大きな声を出して笑っている姿がありました。どんな中でも私たち青学年は楽しむことをやめませんでした。ほかにも、私たちにはたくさんの思い出があります。その中でも、二年生の時に行った自然教室は忘れられません。班の中で役割を決めて作ったカレーはどんなレストランにも負けない味でした。煙にやられてぼろぼろ涙をこぼしている友だちを気遣う人や、量が足りていない班にお裾分けをしている班もありました。一斉にかぶりついたバナナはいつもと違う味がしました。その後キャンプファイアーをしました。火の神様が火をともし、会は始まりました。司会者のパワフルな声、先生方の出し物、全員で踊ったジンギスカンは夜にこだまし、輪になって叫びまくった「アブラハム」では、もはや、「恥」という言葉は無くなっていました。みんなで叫びまくり、全力で青春を謳歌おうかしました。どんなことに対しても全力で取り組めるようになったのは、あの時からだったような気がします。

さて、中学三年間を悔いなく過ごすことができた私たちですが、それは周りの人が居てくれたからこそだと強く感じています。中学三年間の終わりに私たちは感謝の気持ちを伝えたいです。

先生方、私たちを卒業まで導いてくださりありがとうございました。厳しいことを言われた日もありましたが、それは、私たちを思ってくれたことだと、今ならばよく理解できます。なぜなら、厳しいだけではなく、優しく面白い時もたくさんあったからです。それに、私たちが楽しめるようにと、さまざまな企画を用意してくださったり、たくさんたくさん相談に乗ってくださったからです。安心して三年間をすごすことができました。本当にありがとうございました。

保護者の皆さま、三年間毎日のお弁当を始め、中学校生活の様々な場面で支えてくださいました。進路の相談の時には、一番近くで真剣に考え、アドバイスしてくださいました。今思えば、生まれてから初めて将来のことについて話せたという人も多いと思います。お母さんお父さん産んでくれてありがとう。ここにいる皆と同年にしてくれてありがとう。出逢わせてくれてありがとう。そして、お父さんお母さん育ててくれてありがとう。大人になるまでにはもう少し時間がかかりますが、これからもよろしく願います。私たちががんばります。三年間本当にありがとうございました。

私たちがこうしてこの三年間を全力で楽しんできたように、後輩たちにも、毎日悔いなく過ごして欲しいと思っています。二年生は最後の一年です。思うよりも早く時間は過ぎていきます。どうか能動的に動いてください。一生懸命やったあとは、必ず何かが残るからです。友だちとたくさんの思い出を作ってください。一年生には、後輩ができる嬉しさと責任感の両方を感じて欲しいです。そして、生徒会の一員として、これからも全員で明るい中学校をつくりあげてください。

私たちが初めて体育館でそろった日から、約三年が経ちました。廊下を楽しそうに跳ね回る生徒がいたり、授業中の笑い声が響いたり、とても明るい学年でした。後輩からはメリハリのある学年だと言われているようです。

卒業式ももうすぐ終わり、中学校生活は幕を閉じます。私たちは一人ひとり違う道に進んでいきます。私たちが過ごしたこの三年間は何が起きたとしても、人生の中でたった一度の中学校生活であり、とてもかけがえの無い月日でした。そして、それは私たちの誇りほこです。たとえ、この先辛いときがあってもこの三年間を思い出したら、私たちはどんなことも乗り越えていける気がします。先生方や家族の皆様にかえられたこの三年間を大切に思い、全力で走り続けていきます。最後になりましたが、式に参加してくださった来賓の橋本ゆき子さまありがとうございました。

「きっと今は、自由に空も飛べるはず」私たちが今生きる大地の上には果てしない空が広がっています。この空で自由に翼を広げ飛ぶ鳥のように、一人ひとりの翼で自由に自分が思う空を飛び続けていきます。式本番では、代表の生徒は落ち着いて堂々と語っていました。すべて暗記していました。